

## 第7回立山町公共交通活性化協議会会議録（要約版）

日時 令和7年12月18日（木） 9時54分～11時17分

会場 立山町元気交流ステーション1階 イベント広場

出席者 別紙「立山町公共交通活性化協議会委員名簿」のとおり

### 会議録

#### 1 開会

#### 2 挨拶

#### 3 出席者紹介

#### 4 これまでの振り返り等について

#### 5 報告事項

第27号 立山町地域公共交通計画の策定に関する最近の動向について（その4）

第28号 五百石駅周辺のまちづくりに関するアンケート調査結果（公共交通関連部分）について

第29号 立山町地域公共交通計画（素案）に関する意見募集の結果について

#### 6 協議事項

第20号 地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について

⇒挙手全員により、第20号は原案のとおり承認。

第21号 立山町地域公共交通計画（案）について

ア 本計画案においては、鉄道事業再構築事業に関する記載が現状では不十分であり、将来の鉄道事業再構築実施計画の策定・認定申請に当たっては、計画変更が必要となる。（国）

イ これまでの駅の利活用、町営バスの再編、企画乗車券の買上げ・廉価販売、町職員による運転手不足への対応などの提案については、計画に反映されていないが、今後これらが反映されるのかを確認したい。加えて、PDCAに関し、協議の機会があるのかを確認したい。（利用者）

ウ 満足度指標（現状値2.73、目標値2.86）は5点満点である旨を明記した方が分かりやすい。満足度は分布を踏まえて比較すべきであり、グラフ等で示すと成果が分かりやすくなる。（道路管理者）

エ アンケートでは「利用しやすさ」「移動のしやすさ」の評価が低い。基本方針3だけでなく、基本方針1・2にも「しやすさ」等の項目を指標化し、PDCAで検証できるようにすべき。（利用者）

オ 立山町が当初から単なる「維持・存続」ではなく「鉄道を町のためにどう生かすか」という姿勢を示している点を評価し、私たちも応えてい

きたい。鉄道を生かす意欲のある地域には、労働力不足の中でも可能な限りリソースを投入したい。計画推進上の最大リスクは労働力不足であり、解消に資する意見や案があれば是非教えてほしい。(鉄道事業者)

カ 計画策定の過程は丁寧で町の意思が伝わる内容であり、今後も状況変化に応じた対応に期待したい。地域交通を支える担い手に十分光が当たっていない現状がある。限られた人材の中では集中と選択が必要である。担い手確保の方法には、職業の魅力発信や、立山町の魅力や仕事、移住を結び付けた取組がある。特効薬はないが、諦めず継続することが重要である。(労働者団体)

キ 計画はスタートであり、行政・住民・事業者が定期的に意見交換できるタウンミーティング等の定期開催が必要である。観光地が多いため、2次・3次交通の充実と、県内外への観光情報の発信も重要である。(福祉団体)

ク 県では、バス運転手の職業の魅力を伝える施策を進めており、特効薬はないため地道な取組を継続したい。満足度指標が5年ごとの把握では進捗管理として弱い可能性がある。立地適正化計画にこだわらず、毎年の住民アンケートの機会の活用等を検討すべきである。(県)

⇒挙手全員により、第21号は原案のとおり承認。

## 7 その他

ア 岩嶽寺―立山間の鉄道及び道路の維持費の概算はどのくらいか。(利用者)

→ 後日回答。台風の落石だけでも1,000万円超を要するなど管理が厳しい。(鉄道事業者)

→ 除雪費等を含め数千万円を要する規模である。(道路管理者)

## 8 閉会